

○研究タイトル

「宿泊施設における文化表現」と 「宿泊施設が有する文化的価値」に 関する研究

○研究担当者：渡邊智彦

○担当者からのメッセージ

本研究のテーマは、筆者が2008年度に担当した調査の一環で片山津温泉を訪れたこと、すなわち、既存の伝統的な旅館が廃業となっていく一方で、外部資本がそれらの廃業旅館を買い取り、地域内の宿泊施設の過半数を占めている現状を目の当たりにして、「旅館とは何か」、そして「地域と宿泊施設との好ましい関係性はどのようなものか」と改めて考えさせられたことが端緒となっている。

筆者のなかに芽生えたこの問題意識は、翌年度（2009年度）に担当した、訪日外国人旅行者と宿泊施設に関する調査を経て、さらに大きくなった。同調査では「旅館が世界的に見ても独特な宿泊形態であること」「宿泊施設における日本の文化体験に対して外国人の関心が極めて強いこと」「旅館滞在の分かりにくさ（一泊二食設定など）や連泊のしづらさ等が原因で旅館の外国人利用者は少なく滞在日数も短いこと」等が指摘されたが、この調査を通じて筆者は、日本の宿泊施設の魅力を高めるためには、旅館をはじめとする日本の宿泊施設を「文化」という切り口から分析することが糸口となるだろうと考えるに至った。

このような経緯と筆者の思いに基づき、本研究は2010年度に自己啓発研究の一つとして開始された。研究は、テーマに関する情報収集と分析の切り口の整理に主眼が置かれたが、本研究で得られた成果は翌年度（2011年度）の自己啓発研究に引き継がれている。

○報告書目次

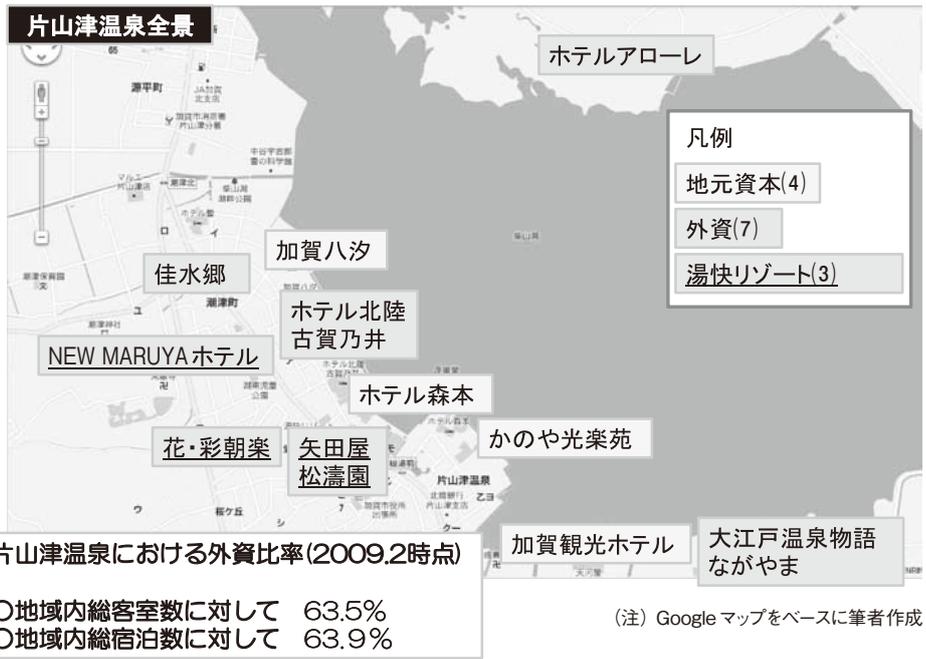
序章. 研究の概要

I章. 宿泊施設が有する文化的価値

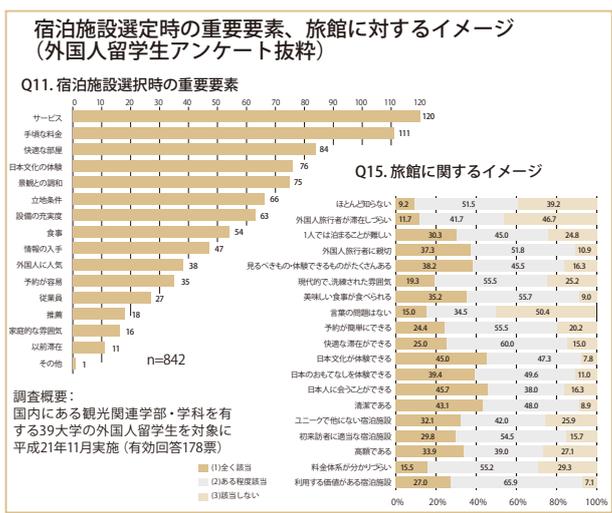
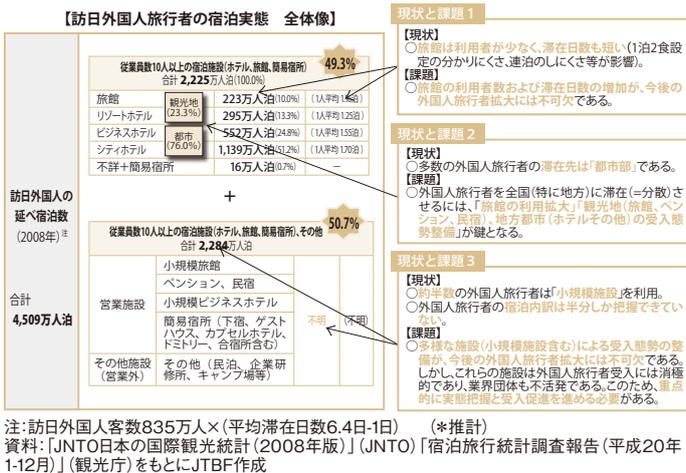
II章. 宿泊施設における文化表現

まとめと課題

参考資料. 世界各国等の政府観光局が提示する宿泊施設のカテゴリー



i) 「訪日外国人旅行者2020年2000万人」に向けて宿泊施設が抱えている課題



1 研究の目的と方法

本研究では、宿泊施設における文化表現の在り方と、宿泊施設が有する文化的価値に関する研究を実施することが、今後の日本の宿泊施設における旅行者の受け入れや、宿泊施設が提供する魅力(価値)について検討する上で非常に重要ではないかという問題意識に基づき、「宿泊施設における文化表現」と「宿泊施設が有する文化的価値」に関する研究を実施するものである。

研究にあたっては、以下の調査を行い、考察を進めた。

- ① 既往研究の収集と分析(日本観光研究学会『全国大会論文集』(1986~2010)、日本観光研究学会『観光研究』(1987~2011)、Travel and Tourism Research Association『Journal of Travel Research』(1968~2011))
- ② 旅館の定義と歴史に関する情報の収集と分析
- ③ 世界各国の宿泊施設の事例収集と分析(各国政府観光局にて紹介されている宿泊施設 ※102カ国180都市)
- ④ 諸外国における宿泊施設の評価基準に関する事例収集と分析(Kiwi Collection, Relais & Châteaux等)
- ⑤ 文化的価値、および文化表現に関する事例収集と分析

2 研究結果の概要

本研究を通じて得られた知見、および考察のポイントは以下のとおりである。

1. 宿泊施設が有する文化的価値に関する考察

本稿では、ユネスコの「文化的多様性に関する世界宣言」における定義（「特定の社会または社会集団に特有の、精神的、物質的、知的、感情的特徴を合わせたもの」、または「芸術・文学だけではなく、生活様式、共生の方法、価値観、伝統および信仰も含むもの」）に従って「文化」の意味を捉え、同時に、文化が有する価値を「文化的価値」と定義した。

さらに、文化人類学や文化経済学における研究成果を踏まえ、「文化的価値」の概念・考え方を説明する重要な構成要素として図表の6点を整理し、併せて、宿泊施設が有する文化的価値に関して考察を行った。

「文化的価値」の概念・考え方を説明する重要な構成要素

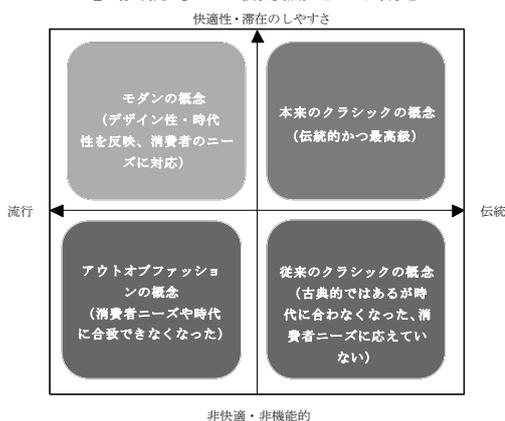
構成要素	説明
1 真正性・完全性・オリジナル性	対象が、本物であること、オリジナルであること、その名で証される唯一のものであることを意味する。
2 アイデンティティーの有無・純度	対象が、所属する集団のアイデンティティーと合致すること、アイデンティティーの度合い（純度）が高いことを意味する。
3 美学的価値	対象が美、調和、形式等の美学的性質を有することを意味する。美学的性質は時代によって評価が異なる場合がある（流行等）。
4 精神的・宗教的価値	対象が、特定の集団にとって重要な意味を持つこと、人間の内面的理解・啓蒙・洞察をもたらすことを意味する。
5 社会的価値	対象の存在が、社会的価値（他者との連帯感、アイデンティティーや場の感覚、所属する社会の本質の理解等）をもたらすことを意味する。
6 歴史的価値	対象が、歴史的事実や過去の状態を説明すること、過去との連帯感とつながりをもたらすことを意味する。

出典：デイヴィッド・スロスビー『文化経済学入門』他

宿泊施設における「文化的価値」に関する考察

構成要素	考察
1 真正性・完全性・オリジナル性	宿泊施設（または宿泊施設を構成する設備やサービス）が有する以下7項目の属性を専門的に判定し、それらの表現の真实性、信用性を識別する必要がある。 1) 形状、意匠 2) 材料、材質 3) 伝統、技能、管理態勢 4) 位置、セッティング 5) 言語その他の無形遺産 6) 精神、感性 7) その他の内部要素、外部要素
2 アイデンティティーの有無・純度	宿泊施設（または宿泊施設を構成する設備やサービス）のアイデンティティーは、施設の立地や所属する社会集団によるところが大きく、文化的価値としての姿は、そのアイデンティティーのスケール（国レベル、地域レベル等）によっても異なってくる。地域の生活様式を反映した建築様式やサービス、食事の提供方法等によって示される。外部資本による宿泊施設が地域の文化や環境に配慮しない形で参入する場合は、このアイデンティティーの合致が見られない、度合いが低いと説明できる。
3 美学的価値	宿泊施設（または宿泊施設を構成する設備やサービス）の美学的価値は、宿泊施設の建築様式や内装・外装、食事の器までさまざまなものが該当する。美学的性質は時代によって、また人によって評価が異なる場合があるため、美学的価値をどこに見いだすかという部分が重要となる。
4 精神的・宗教的価値	宗教施設そのものやそれに付随する宿泊施設（教会や宿坊等）、特定の宗教的行為に伴い宿泊を行う場所や施設（宗教的山岳を登山する前に身を清める等）が挙げられる。また、宿泊施設を利用するにあたっての特定の作法等も想定できる。
5 社会的価値	宿泊施設が存在自体が地域にとって意味があるといったケース、地域内外の利用者が集まる空間（パブ等）が地域社会（コミュニティ）に重要な場となるケース等が挙げられる。
6 歴史的価値	過去の建築様式を残す宿泊施設（文化財としての宿泊施設）や、過去に特定の事件が発生した宿泊施設等が該当する。

宿泊施設における文化的価値を表す「クラシック」（伝統的かつ最高級）という概念



2. 宿泊施設における文化的価値を表す「クラシック」（伝統的かつ最高級）という概念の必要性

世界各国におけるさまざまな宿泊形態や評価基準を調べた結果、スペインにおけるパドールなど、国や地域固有の文化的価値を宿泊施設として活用しながら、快適性・滞在のしやすさにおいても質の高さを実現している宿泊形態が見られる。一方、日本においては、古いものや伝統的なものは、全般的に機能が低く、分かりづらくなっているものが多く、旅館をはじめとする宿泊施設においても、一泊二食の料金体系による分かりづらさや宿泊施設のカテゴリの不明瞭性が、伝統と機能性の両立を妨げる原因となっていると推測される。

西洋においては「クラシック」とは「伝統的かつ最高級」を意味するものであるが、日本においては「最高級」の部分が抜け落ちて理解され、単なる「古典的」「伝統的」なものだと理解されている点に大きな問題がある。

宿泊施設における最高級とは、「快適に滞在する」という宿泊施設が本来的に

提供する環境や条件を示すことであり、宿泊施設の伝統を魅力として生かし、滞在の快適性を高める工夫とともに、この両者を実現させている宿泊形態を「クラシック旅館」(仮称)として定義し、位置づけることが重要だと思われる。

3. 既往研究に関する考察

前述「1. 研究の目的と方法」中の①に示した学会論文を対象とした既往研究の調査を行ったが、本研究のテーマである「宿泊施設が有する文化的価値」もしくは「宿泊施設の文化表現」そのものを主題とする論文は存在しなかった。

本研究のテーマに関連する研究としては、以下が挙げられる(研究の分類テーマは筆者による)。

「宿泊施設が有する文化的価値」もしくは「宿泊施設の文化表現」に関連する研究論文

構成要素	考 察
1 特定の宿泊形態に関する研究	ペンションのタイプと外部空間構成に関する研究(石川浩史、下村彰男「全国大会論文集」1987.11/No.2)、The Bed And Breakfast And Small Inn Industry Of The Commonwealth Of Massachusetts: An Exploratory Survey(Rodney B. Warnick and Lawrence R. Klar, JR, January 1991) 等
2 利用者から見た宿泊施設の価値(宿泊施設の利用や選択等)に関する研究	個人の価値構造とホテル属性との因果関係に関する研究(崔 Kyu-Whan「全国大会論文集」1996/No.11)、Attributional Analysis of Customers' Hotel Selection Criteria by U.K. Grading Scheme Categories(Roger J. Callan, January 1998) 等
3 宿泊施設が提供する価値・魅力・サービス等に関する研究	日本旅館における人的サービスに関する考察(姜聖淑「全国大会論文集」1999.10/No.14ポスターセッション) 等
4 宿泊施設に関する法律・制度の研究	「観光ホテル等級決定制度」に関する研究(李裁或「全国大会論文集」1991.11/No.6) 等
5 宿泊施設のイメージ(提供する価値や機能)に関する研究	地方都市におけるホテルイメージに関する調査研究(大森信治郎、東海林智「全国大会論文集」1986.11/No.1) 等
6 宿泊施設の歴史(と施設選定の基準等)に関する研究	昭和初期の国際観光政策により建設されたホテルの立地とその建築(大島正敬、安島博幸「全国大会論文集」1991.11/No.6)
7 文化的価値を含む観光における価値に関する研究(宿泊施設に限定しないものとする)	価値の捉え方に関する歴史的・学際的考察(崔 Kyu-Whan「全国大会論文集」1997/No.12)、Experiencing Cultural Tourism: Visitors at the Maori Arts and Crafts Institute, New Zealand(Chris Ryan and Opal Higgins, February 2006) 等
8 文化の表現に関する研究(宿泊施設に限定しないものとする)	フランスリゾート基地における「風土性表現」手法(橋本健一「全国大会論文集」1995.12/No.10)、Heritage Cultural Attraction Atmospherics: Creating the Right Environment for the Heritage/Cultural Visitor(Mark A. Bonn, Sacha M. Joseph-Mathews, Mo Dai, Steve Hayes and Jenny Cave, February 2007) 等
9 宿泊文化の受容に関する研究	台湾北投温泉の変遷、温泉文化の受容と変容(曾山毅「全国大会論文集」1999.10/No.14)

3 今後の課題

本研究における最大の課題は、研究の視点および方法論が、観光の周辺諸学(文化人類学、文化経済学等)の実績に大きく依拠しているため、観光研究のオリジナリティーが十分に発揮されていないことにある。本テーマにおける観光研究のオリジナリティーを発揮するためには、観光にとっても文化的価値とは何かという命題を整理する必要があり、筆者は、1)旅行者、2)地域・宿泊施設、3)国・社会全体、の3つの主体にとっての価値と、それらの主体間の関係性のなかでの価値を議論していくことが今後さらに研究を進めていくための課題だと考えている(本研究は2011年度も継続して実施している)。

